

第1章

くすりについて(情報アクセス、理解、使用実態)

第1章 くすりについて（情報アクセス、理解、使用実態）

*（ ）内は23年調査との比較

- 自身の健康状態について、「健康」と回答したのは69.2%（3.8ポイント減）
「入院」および「通院」したことがある受診経験率は70.6%（1.4ポイント増）
- 入手したい処方薬情報上位は
くすりの「効能・効果」「副作用」「飲み合わせの注意」「服用方法」「成分」
- 処方薬情報の入手経路上位は
「医師・薬剤師」「ウェブサイト」
- 利用したウェブサイト上位は
「製薬会社」「民間の情報サイト」
- 利用したSNS上位は
「民間の情報SNS」「製薬会社」「個人（家族、知人を含む）」「製薬産業の業界団体」
- 処方薬情報の入手方法上位は
「口頭による説明」「（紙）病院や薬局で作った説明書」
- かかりつけ薬局のある人は37.2%（1.3ポイント増）
- 製薬会社の「くすり相談窓口」の認知は16.4%（2.6ポイント減）。利用者満足層の割合は100.0%（8.8ポイント増）。
 - ・ 認知経路は、「ウェブサイト」が53.0%（認知者ベース）で最多
 - ・ 利用率 22.3%（認知者ベース）
 - ・ 問い合わせ内容上位は、「効能・効果」「成分・特徴」「副作用」「服用方法」
 - ・ 利用者の100.0%が窓口の対応に満足している（「とても満足」51.9%「まあ満足」48.1%）
- 処方薬の使用実態は「医師や薬剤師の指示どおり飲んでる」は59.5%と前回より減少（9.1ポイント減）
 - ・ 指示どおりに飲めていない理由は、「つい、忘れてしまう」が34.8%（指示どおり飲めていないベース）で最多
 - ・ 服薬にあたっての不便さ上位は、「味がまずい」「1回の服用量が多い」「くすりが大きくて飲みづらい」
- 副作用経験率は前回より微増、副作用関心度は前回より減少。
 - ・ 副作用経験率 29.5%（0.7ポイント増）「時々ある」11.3%「1～2度ある」18.2%
 - ・ 副作用関心度 48.1%（3.4ポイント減）「非常に気にしている」11.0%「まあ気にしている」37.1%
- 副作用経験時に医師や薬剤師に相談しなかった割合は31.7%（0.2ポイント減）
- 副作用経験時に相談しなかった理由上位は

「副作用と思われる症状が起きても特に困らなかったから」	37.4%（5.0ポイント減）
「どの程度の症状で医療機関に連絡して良いのかわからなかったから」	22.5%（0.2ポイント増）
「ウェブサイトやSNSで検索して対応できたから」	16.0%（1.9ポイント増）
「仕事などで忙しく、医療機関への連絡や受診ができなかったから」	15.0%（0.2ポイント減）

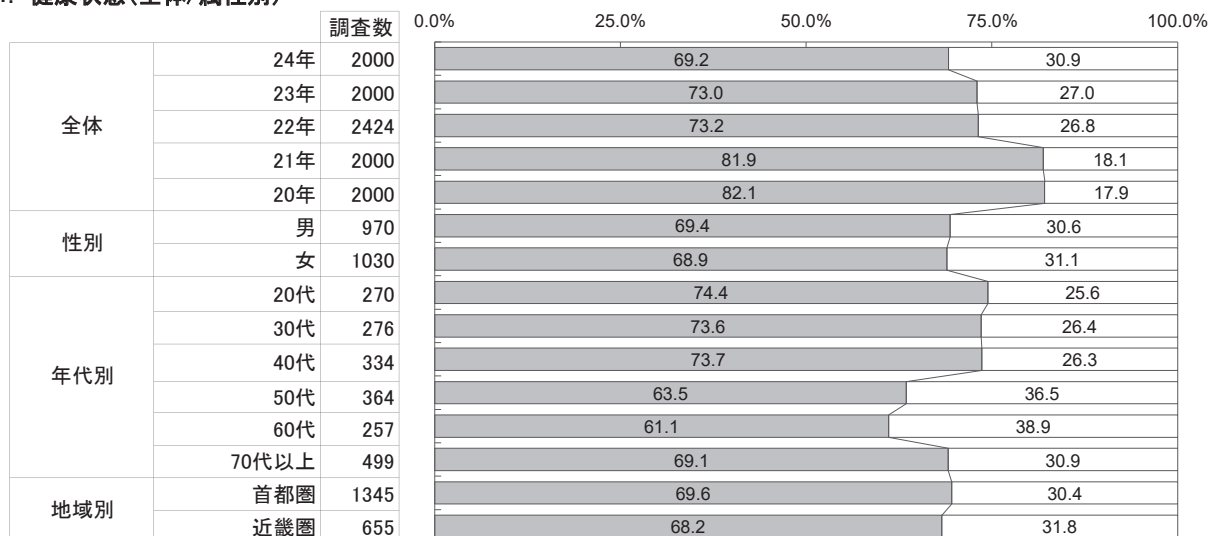
1 健康状態と受診経験

(1) 健康状態 [F5]

「健康層」は69%で、「まあ健康(普通)」が61%、「非常に健康」が9%

- 自身の健康状態について、「健康」（「非常に健康」「まあ健康(普通)」）と回答したのは69.2%で、23年から3.8ポイントの減少である。
- 属性別に健康層の割合をみると、性別では差はない。年代別では20代から40代までは70%台半ばで横並びだが、50代になると63.5%に急減し、60代で61.1%でボトムとなり、70代以上で69.1%に回復する。なお、地域差はほぼない。
- 「非常に健康」の割合は、性別では女性が男性より3.5ポイント低い。年代別では高年代ほど低くなり、20代では20.4%だが70代以上は2.4%と僅かになる。

図表1. 健康状態(全体/属性別)



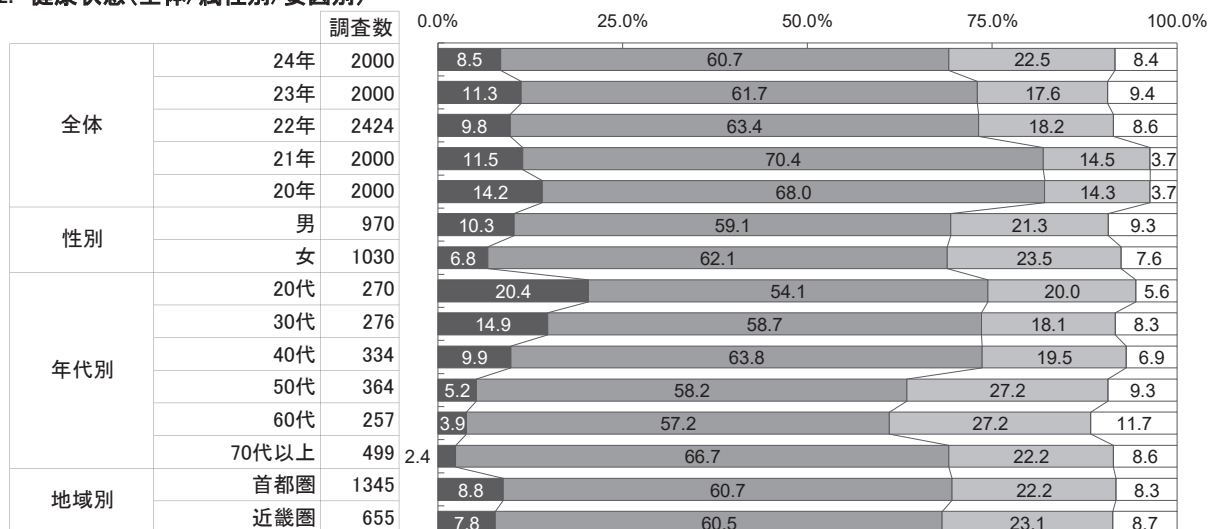
注1) %値は回答者ベースで算出

注2) 「健康層」=「非常に健康」「まあ健康(普通)」の合計比率

「不健康層」=「健康に不安がある」「健康ではない(持病等がある)」の合計比率

■健康層 □不健康層

図表2. 健康状態(全体/属性別/要因別)



注) %値は回答者ベースで算出

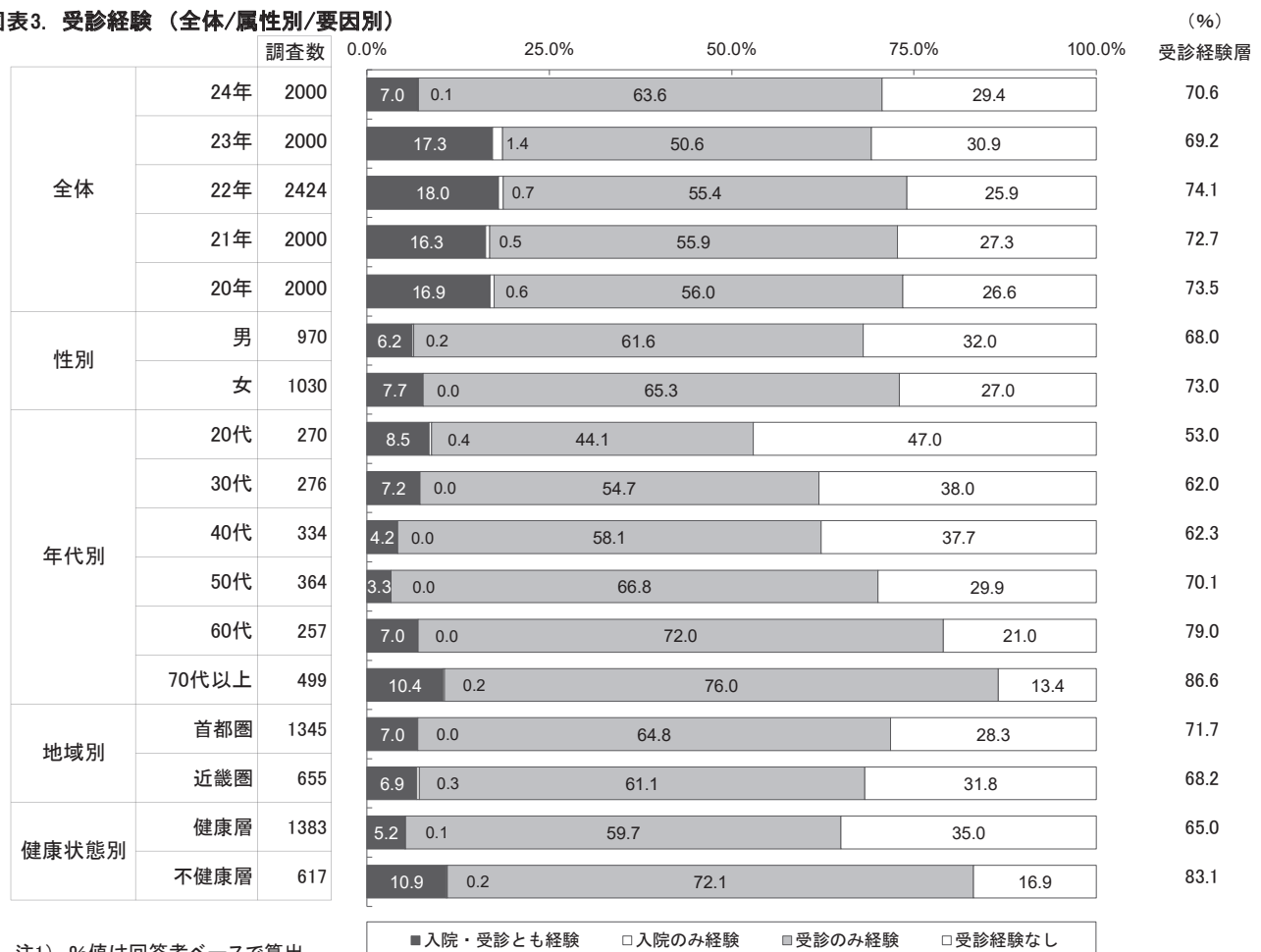
■非常に健康 ■まあ健康(普通)
□健康に不安がある □健康ではない(持病等がある)

(2) 受診経験 [F6 * F7]

直近の1年間での受診経験率は71%（入院または受診または両方を経験）

- 直近1年間に「入院」または「受診」したことがある層（受診経験層）は70.6%で、うち7.0%が「入院・受診とも経験」している。
 - 性別でみると、受診経験率は女性の方が男性より5.0ポイント高い。年代別にみると、高年代ほど受診経験層が上昇しており、70代以上の受診経験率は86.6%に達している。「入院・受診とも経験」した割合は70代以上と20代が高く50代は最も低い。一方で「受診のみ経験」の割合は高年代ほど高い。
 - 健康状態別では、不健康層は受診経験率が83.1%で健康層より18.1ポイント高い。
「入院・受診とも経験」した割合は健康層では5.2%だが、不健康層では10.9%とやや高い。
- ※ 24年から該当期間を変更した（23年までは「通院はこの3年間・入院はこの5年間」について聴取、24年は「通院」を「受診」とし、なおかつ「受診」「入院」どちらも「この1年間」について聴取）。そのため、23年以前の数値は参考値とする。

図表3. 受診経験（全体/属性別/要因別）



注1) %値は回答者ベースで算出

注2) 「受診経験層」＝「入院・受診とも経験」「入院のみ経験」「受診のみ経験」の合計比率

注3) 入院、受診期間を24年から「1年間」に変更

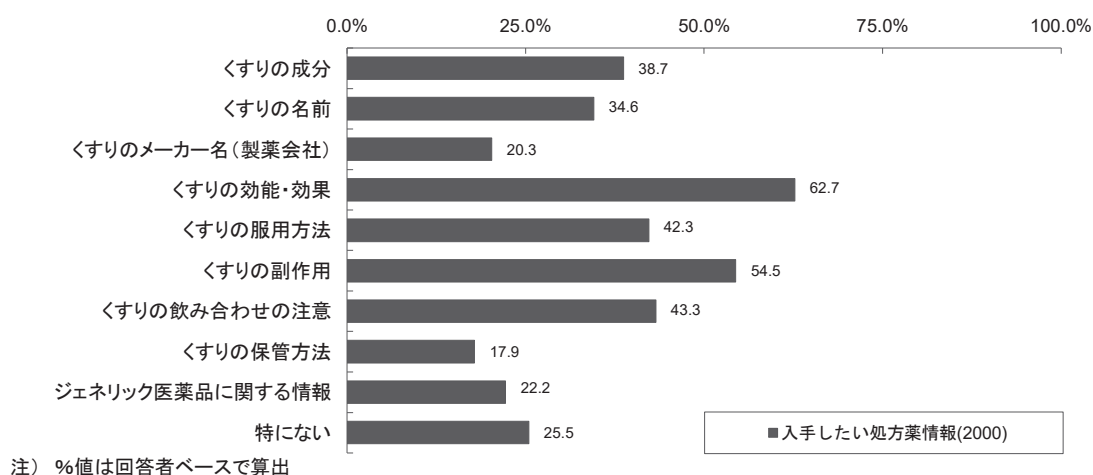
2 処方薬についての説明

(1) 入手したい処方薬情報 [問1]

患者側が入手したい処方薬の情報は「くすりの効能・効果」と「くすりの副作用」がトップ2

- 入手したい処方薬情報は「くすりの効能・効果」62.7%がトップ、やや差があつて「くすりの副作用」54.5%が続く。以下は「くすりの飲み合わせの注意」と「くすりの服用方法」が40%強、「くすりの成分」は40%弱、「くすりの名前」が30%強となっている。
- 前回と比較すると「くすりの名前」と「くすりのメーカー名（製薬会社）」がほぼ倍増している。それ以外の各項目もスコアは軒並み上昇しているが、「くすりの成分」だけは、僅か3.7ポイントだが減少している。
- 性別では、女性の方がスコアが高い項目が多く、なおかつ9項目中4項目で10ポイント以上の差がある。
- 年代別では、50代からスコアが上昇する項目が目立ち、「くすりの効果・効能」はその傾向が顕著である。
- 大半の項目で、健康層より不健康層、受診経験のない層より受診・入院経験層、副作用経験のない層よりある層の方が高スコアである。

図表4. 入手したい処方薬情報×医師・薬剤師からの説明の内容（全体/24年）【複数回答】



図表5. 情報入手意向比率（全体/24年/23年/22年/21年/20年/属性別）【複数回答】

(単位: %)

		調査数	くすりの成分	くすりの名前	くすりのメーカー名(製薬会社)	くすりの効能・効果	くすりの服用方法	くすりの副作用	くすりの飲み合わせの注意	くすりの保管方法	ジェネリック医薬品に関する情報	特になし
全体	24年	2000	38.7	34.6	20.3	62.7	42.3	54.5	43.3	17.9	22.2	25.5
	23年	2000	42.4	16.9	11.6	55.9	33.1	54.1	34.6	10.0	13.3	23.5
	22年	2424	40.6	16.1	11.5	55.5	33.9	53.6	36.5	11.6	15.4	24.8
	21年	2000	43.8	19.2	18.5	58.2	35.3	58.2	46.1	18.3	21.3	24.1
	20年	2000	40.8	20.4	17.0	57.1	35.1	55.3	45.4	16.4	21.4	25.2
性別	男	970	33.6	29.9	18.0	55.1	36.7	47.0	34.9	13.9	20.4	32.2
	女	1030	43.5	38.9	22.3	69.9	47.5	61.5	51.1	21.6	23.9	19.1
年代別	20代	270	33.0	34.8	15.2	46.7	40.7	39.6	32.6	16.3	13.7	35.6
	30代	276	43.1	33.0	17.8	56.2	43.8	48.9	39.9	16.3	18.1	29.3
	40代	334	37.1	31.7	19.5	58.4	44.3	50.6	42.8	20.1	20.4	31.7
	50代	364	38.5	34.3	20.9	67.9	41.2	56.9	46.2	17.0	24.7	23.1
	60代	257	40.5	33.9	19.1	64.6	39.7	60.3	51.0	21.8	23.0	22.2
	70代以上	499	39.7	37.7	25.1	73.1	42.9	63.3	45.1	16.6	28.1	17.0
地域別	首都圏	1345	38.6	35.4	21.3	64.0	43.6	54.9	44.3	18.3	23.9	24.4
	近畿圏	655	38.9	32.8	18.2	60.0	39.5	53.6	41.1	16.9	18.8	27.6
健康状態別	健康層	1383	37.5	33.0	19.1	59.4	41.1	51.3	40.1	17.1	20.5	27.9
	不健康層	617	41.5	37.9	22.9	70.0	44.7	61.6	50.4	19.6	26.1	19.9
受診経験別	受診経験なし層	588	26.4	20.9	14.5	42.9	32.0	37.6	27.4	16.2	13.6	47.8
	受診経験層	1410	43.8	40.2	22.7	71.1	46.5	61.6	49.9	18.6	25.8	16.1
	入院経験層	141	49.6	36.9	24.1	63.8	44.7	56.7	47.5	17.7	26.2	11.3
副作用経験別	副作用経験層	590	53.2	47.1	28.1	72.0	51.9	69.8	55.1	21.9	29.2	12.9
	副作用未経験層	1410	32.6	29.3	17.0	58.8	38.2	48.0	38.3	16.2	19.3	30.7

注) %値は回答者ベースで算出

※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

(2) 処方薬情報の入手経路 [問2]

処方薬情報の入手経路は、「医師・薬剤師」と「ウェブサイト」が突出して高い

- 処方薬情報の入手経路は、「医師・薬剤師」56.8%と「ウェブサイト」40.5%が群を抜き、「特に入手していない」25.7%以外の他項目はいずれも数パーセントである。
- 性別では「医師・薬剤師」も「ウェブサイト」も女性の方が高く、「特に入手していない」は男性の方が高い。
- 地域別では大きな差はみられないが、「ウェブサイト」は首都圏の方がやや高い。
- 年代別にみると「医師・薬剤師」は高年層ほど高く、特に50代以上で顕著である。「ウェブサイト」は50代の48.1%が最も高く、60代と70代以上でも40%を超える。「特に入手していない」は若年層ほど高く、20代は34.1%で70代以上と比べて約20ポイント高い。
- 「医師・薬剤師」は、健康層より不健康層、受診経験のない層より受診・入院経験層、副作用経験のない層よりある層の方が明らかに高い。「ウェブサイト」もほぼ同様の傾向だが、入院経験層よりも通院経験層の方が高い。

図表6. 処方薬情報の入手経路（全体/属性別/要因別）【複数回答】

（単位：％）

		調査数	医師・ 薬剤師	ウェブ サイト	F S a N c e b o o k など	新聞	週 刊 誌 な ど の 雑 誌	健康 専門 誌	テレビ、 ラジオ	書籍	製薬 会社 のパン フレット や冊子	特に 入手し ていない	その他
全体	24年	2000	56.8	40.5	6.4	1.8	1.4	1.5	4.0	1.7	4.7	25.7	2.5
性別	男	970	52.3	38.2	6.9	2.2	2.4	1.8	4.6	2.0	4.1	29.5	2.8
	女	1030	61.1	42.5	5.9	1.4	0.4	1.3	3.4	1.5	5.1	22.0	2.1
年代	20代	270	46.3	31.9	17.0	0.7	2.6	3.0	4.8	1.5	3.3	34.1	5.2
	30代	276	47.8	37.0	12.3	1.1	2.2	1.1	2.9	3.6	4.0	33.7	2.5
	40代	334	49.4	37.1	5.7	0.9	1.5	1.5	2.4	2.1	6.3	32.6	3.3
	50代	364	53.8	48.1	4.1	2.2	1.9	1.1	4.7	1.6	4.9	25.8	1.6
	60代	257	63.0	44.7	1.9	2.3	0.4	1.2	3.5	0.8	3.5	20.2	0.8
	70代以上	499	71.3	41.5	1.8	2.6	0.2	1.4	5.0	1.0	5.0	14.6	1.8
地域別	首都圏	1345	57.8	42.4	6.5	1.7	1.4	1.6	3.9	1.8	4.3	24.7	2.0
	近畿圏	655	54.7	36.5	6.1	1.8	1.2	1.4	4.3	1.5	5.3	27.6	3.4
健康状態別	健康層	1383	54.7	38.1	6.5	1.7	1.4	1.5	3.7	1.4	4.3	27.9	2.3
	不健康層	617	61.4	45.7	6.2	1.9	1.1	1.5	4.7	2.4	5.3	20.6	2.8
受診経験別	受診経験なし層	588	29.9	28.4	4.8	0.5	0.3	0.7	3.2	1.2	2.6	48.1	4.6
	受診経験層	1410	68.1	45.5	7.0	2.3	1.7	1.8	4.3	1.9	5.5	16.2	1.6
	入院経験層	141	70.2	36.2	15.6	5.0	5.7	4.3	6.4	2.1	7.1	13.5	1.4
副作用の経験別	副作用経験層	590	67.6	55.1	12.2	3.1	3.4	2.9	6.9	3.2	7.1	11.9	2.2
	副作用未経験層	1410	52.3	34.3	4.0	1.2	0.5	0.9	2.8	1.1	3.6	31.4	2.6

注）％値は回答者ベースで算出

※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

(3) 利用したウェブサイト [問2-1]

利用したウェブサイトは「製薬会社」と「民間の情報サイト」が圧倒的に多い

- 利用したウェブサイトは、「製薬会社」の54.9%と「民間の情報サイト」42.6%が際立って高い。続くのは「病院・診療所（医院）」17.3%と「マスメディアが運営する医療情報サイト」15.2%だが、上位2項目とは30ポイント程度の差がある。
- 性別では目立った差はないが、総じて男性の方がスコアが高くなっている。
- 年代別にみると、総じて若年層ほど各項目のスコアが高い傾向にある。一方で「マスメディアが運営する医療情報サイト」は70代以上、「民間の情報サイト」は50代のスコアの高さが目立つ。
- 地域別では特段の傾向はみられない。
- 健康状態別では、健康層より不健康層、受診経験別では受診経験のない層より受診・入院経験層、副作用経験別では副作用未経験層より経験層の方が各項目のスコアが高い傾向にある。

図表7. 利用したウェブサイト（全体/属性別/要因別）【複数回答】

（単位：%）

		調査数	製薬会社	製薬産業の業界団体	薬剤師会	医師会、学会	患者団体	病院、診療所（医院）	国や国の機関、自治体など公的機関	マスメディアが運営する医療情報サイト	民間の情報サイト	個人（家族、知人を含む）	その他
全体	24年	809	54.9	10.6	6.6	8.5	2.6	17.3	10.4	15.2	42.6	5.9	7.0
性別	男	371	53.9	14.0	7.5	9.2	3.8	18.6	13.5	17.5	43.7	5.4	5.4
	女	438	55.7	7.8	5.7	8.0	1.6	16.2	7.8	13.2	41.8	6.4	8.4
年代	20代	86	61.6	15.1	15.1	9.3	7.0	23.3	15.1	15.1	31.4	8.1	5.8
	30代	102	64.7	15.7	7.8	14.7	2.9	16.7	14.7	11.8	45.1	9.8	4.9
	40代	124	54.0	9.7	6.5	8.9	4.0	20.2	10.5	11.3	46.0	10.5	4.8
	50代	175	51.4	7.4	4.6	5.1	1.7	12.0	7.4	14.3	52.0	3.4	8.6
	60代	115	49.6	7.8	3.5	6.1	0.9	14.8	8.7	13.0	37.4	5.2	10.4
	70代以上	207	53.6	11.1	5.8	9.2	1.4	19.3	9.7	21.3	39.1	2.9	6.8
地域別	首都圏	570	53.9	11.2	7.2	8.6	2.6	17.4	10.4	15.1	45.1	6.3	6.7
	近畿圏	239	57.3	9.2	5.0	8.4	2.5	17.2	10.5	15.5	36.8	5.0	7.9
健康状態別	健康層	527	56.4	9.9	6.6	8.3	2.7	15.9	11.2	13.7	40.4	5.5	6.8
	不健康層	282	52.1	12.1	6.4	8.9	2.5	19.9	8.9	18.1	46.8	6.7	7.4
受診経験別	受診経験なし層	167	50.9	7.8	4.8	6.6	2.4	16.8	15.6	11.4	44.9	8.4	10.2
	受診経験層	642	55.9	11.4	7.0	9.0	2.6	17.4	9.0	16.2	42.1	5.3	6.2
	入院経験層	51	68.6	27.5	19.6	21.6	7.8	35.3	15.7	17.6	33.3	7.8	2.0
副作用の経験別	副作用経験層	325	59.7	15.7	10.2	12.6	3.7	20.9	12.0	15.1	44.0	7.4	5.2
	副作用未経験層	484	51.7	7.2	4.1	5.8	1.9	14.9	9.3	15.3	41.7	5.0	8.3

注）%値は回答者ベースで算出

※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

(4) 利用したSNS [問2-2]

利用したSNSは「民間の情報SNS」と「製薬会社」に、「個人（家族、知人を含む）」が続く

- 利用したSNSは、「民間の情報SNS」39.1%、「製薬会社」34.4%、「個人（家族・知人を含む）」28.1%がトップ3である。以降は「製薬産業の業界団体」「病院・診療所（医院）」「マスメディアが運営する医療情報SNS」が続くが、いずれも20%前後である。
- 性別にみると、総じて男性の方が高い傾向にある。なかでも「製薬産業の業界団体」はダブルスコアの差がある。例外は「個人」で、男性は19.4%だが、女性はその2倍近い37.7%となっている。
- 年代別では、各層のサンプル数も少なく、まとまった傾向は見られない。
- 地域別では、「医師会・学会」と「病院・診療所（医院）」は近畿圏の方が高い。
- 健康状態別では、不健康層は「民間の情報SNS」と「マスメディアが運営する医療情報SNS」が高い。
- 副作用経験別では、副作用経験層より未経験層の方が「個人（家族、知人を含む）」の割合が目立って高い。

図表8. 利用したSNS（全体/属性別/要因別）【複数回答】

（単位：%）

		調査数	製薬会社	製薬産業の業界団体	薬剤師会	医師会、学会	患者団体	病院、診療所（医院）	国や国の機関、自治体など公的機関	S N S マスメディアが運営する医療情報	民間の情報SNS	個人（家族、知人を含む）	その他
全体	24年	128	34.4	20.3	8.6	14.8	7.8	19.5	12.5	18.8	39.1	28.1	7.0
性別	男	67	35.8	26.9	13.4	19.4	10.4	17.9	13.4	22.4	41.8	19.4	6.0
	女	61	32.8	13.1	3.3	9.8	4.9	21.3	11.5	14.8	36.1	37.7	8.2
年代	20代	46	28.3	21.7	6.5	13.0	6.5	17.4	10.9	15.2	26.1	37.0	6.5
	30代	34	38.2	32.4	11.8	11.8	14.7	17.6	8.8	17.6	35.3	26.5	14.7
	40代	19	36.8	10.5	21.1	31.6	10.5	26.3	21.1	21.1	57.9	26.3	0.0
	50代	15	33.3	13.3	0.0	6.7	0.0	20.0	13.3	26.7	46.7	13.3	0.0
	60代	5	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	80.0	20.0	0.0
	70代以上	9	33.3	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2	11.1	22.2	44.4	22.2	11.1
地域別	首都圏	88	35.2	21.6	10.2	11.4	9.1	15.9	12.5	19.3	38.6	30.7	4.5
	近畿圏	40	32.5	17.5	5.0	22.5	5.0	27.5	12.5	17.5	40.0	22.5	12.5
健康状態別	健康層	90	34.4	22.2	10.0	17.8	8.9	22.2	13.3	13.3	34.4	30.0	6.7
	不健康層	38	34.2	15.8	5.3	7.9	5.3	13.2	10.5	31.6	50.0	23.7	7.9
受診経験別	受診経験なし層	28	35.7	14.3	3.6	14.3	3.6	25.0	14.3	21.4	25.0	28.6	14.3
	受診経験層	99	34.3	21.2	10.1	15.2	9.1	18.2	12.1	18.2	43.4	28.3	5.1
	入院経験層	22	36.4	36.4	9.1	27.3	13.6	27.3	22.7	22.7	22.7	18.2	9.1
副作用の経験別	副作用経験層	72	41.7	29.2	11.1	16.7	8.3	23.6	13.9	20.8	36.1	22.2	2.8
	副作用未経験層	56	25.0	8.9	5.4	12.5	7.1	14.3	10.7	16.1	42.9	35.7	12.5

注）%値は回答者ベースで算出

※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

(5) 処方薬情報の入手方法 [問3]

処方薬情報の入手方法は「口頭による説明」と「（紙）病院や薬局で作った説明書」が圧倒的

- 処方薬情報の入手方法は、「口頭による説明」51.2%と「（紙）病院や薬局で作った説明書」50.4%が群を抜いている。続く「（デジタル）ウェブサイト、QRコードやアプリ」以下は軒並み20%に届いていない。
- 前回と比較すると、各項目のスコアに多少の変動はあるものの、全体としての傾向には変化はみられない。
- 性別では「口頭による説明」と「（紙）病院や薬局で作った説明書」は女性の方が明らかに高い。一方で、「特にない」は男性が女性の約2倍である。
- 年代別にみると、「口頭による説明」と「（紙）病院や薬局で作った説明書」は高年層ほど高い傾向にある。対して「特にない」と「（デジタル）ウェブサイト、QRコードやアプリ」は、若年層ほど高スコアである。
- ロースコアの一部項目を除き、健康層より不健康層、受診経験のない層より受診・入院経験層、副作用経験のない層よりある層の方がスコアが高い傾向がみられる。

図表9. 処方薬情報の入手方法（全体/属性別/要因別）【複数回答】

（単位：％）

		調査数	口頭による説明	（紙）病院や薬局で作った説明書	（紙）製薬会社が作ったパンフレット	（デジタル）ウェブサイト、QRコードやアプリ	（デジタル）SNSやメール	視聴（デジタル）医療機関内で動画等の提供	（デジタル）電子版おくり手帳での提供	特にない	その他
全体	24年	2000	51.2	50.4	15.1	19.6	5.3	4.3	9.4	20.3	1.3
	23年	2000	52.3	47.4	13.7	19.7	6.1	1.8	8.1	21.3	1.0
性別	男	970	47.1	43.7	11.8	20.0	7.0	5.1	9.8	26.2	1.5
	女	1030	55.0	56.6	18.2	19.2	3.7	3.5	8.9	14.7	1.0
年代	20代	270	47.0	36.7	13.7	21.1	8.5	5.9	8.1	30.4	2.6
	30代	276	52.2	46.4	16.3	22.8	8.7	6.2	7.2	23.6	1.4
	40代	334	47.0	44.3	17.4	19.5	4.5	3.9	8.4	27.2	1.2
	50代	364	50.3	51.9	14.3	21.7	5.8	3.8	8.2	19.2	1.4
	60代	257	53.3	53.7	14.4	17.1	3.1	2.3	11.7	18.3	0.4
	70代以上	499	55.3	61.1	14.4	16.8	3.0	3.8	11.4	10.0	0.8
地域別	首都圏	1345	51.4	50.9	15.7	21.3	6.3	4.8	10.1	19.2	0.9
	近畿圏	655	50.8	49.2	13.7	16.2	3.2	3.1	7.8	22.4	2.0
健康状態別	健康層	1383	49.8	47.9	14.1	18.1	5.1	4.4	8.9	22.4	0.9
	不健康層	617	54.3	55.9	17.2	22.9	5.8	3.9	10.4	15.4	2.1
受診経験別	受診経験なし層	588	35.4	34.9	12.2	15.8	5.6	3.9	6.6	39.3	2.4
	受診経験層	1410	57.9	56.9	16.2	21.1	5.2	4.4	10.5	12.3	0.8
	入院経験層	141	56.7	63.1	22.7	24.8	6.4	9.2	16.3	7.1	1.4
副作用経験別	副作用経験層	590	56.1	55.3	23.1	28.5	8.5	7.1	13.1	12.0	0.8
	副作用未経験層	1410	49.1	48.3	11.7	15.9	4.0	3.0	7.8	23.7	1.4

注）％値は回答者ベースで算出

※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

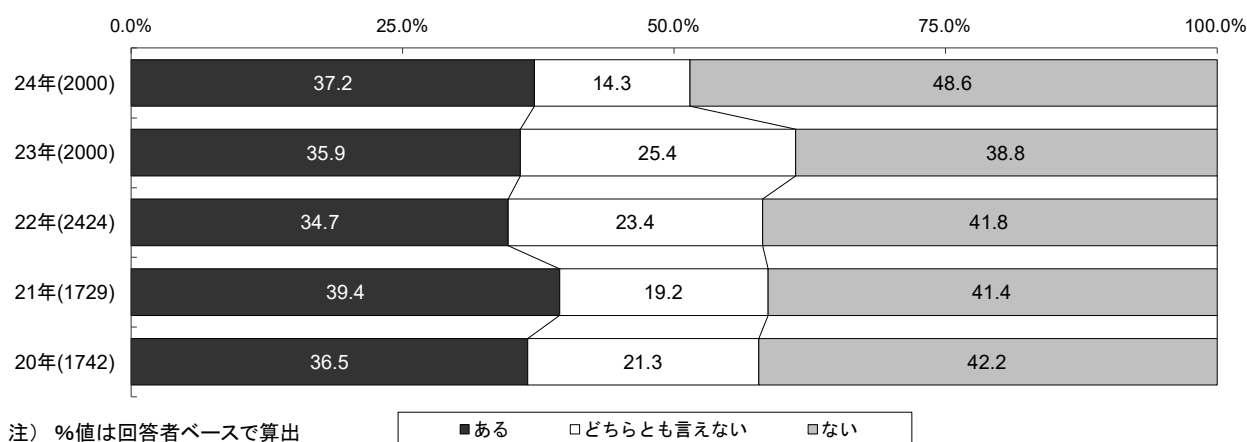
3 かかりつけ薬局とくすりの相談窓口

(1) かかりつけ薬局の有無 [問4]

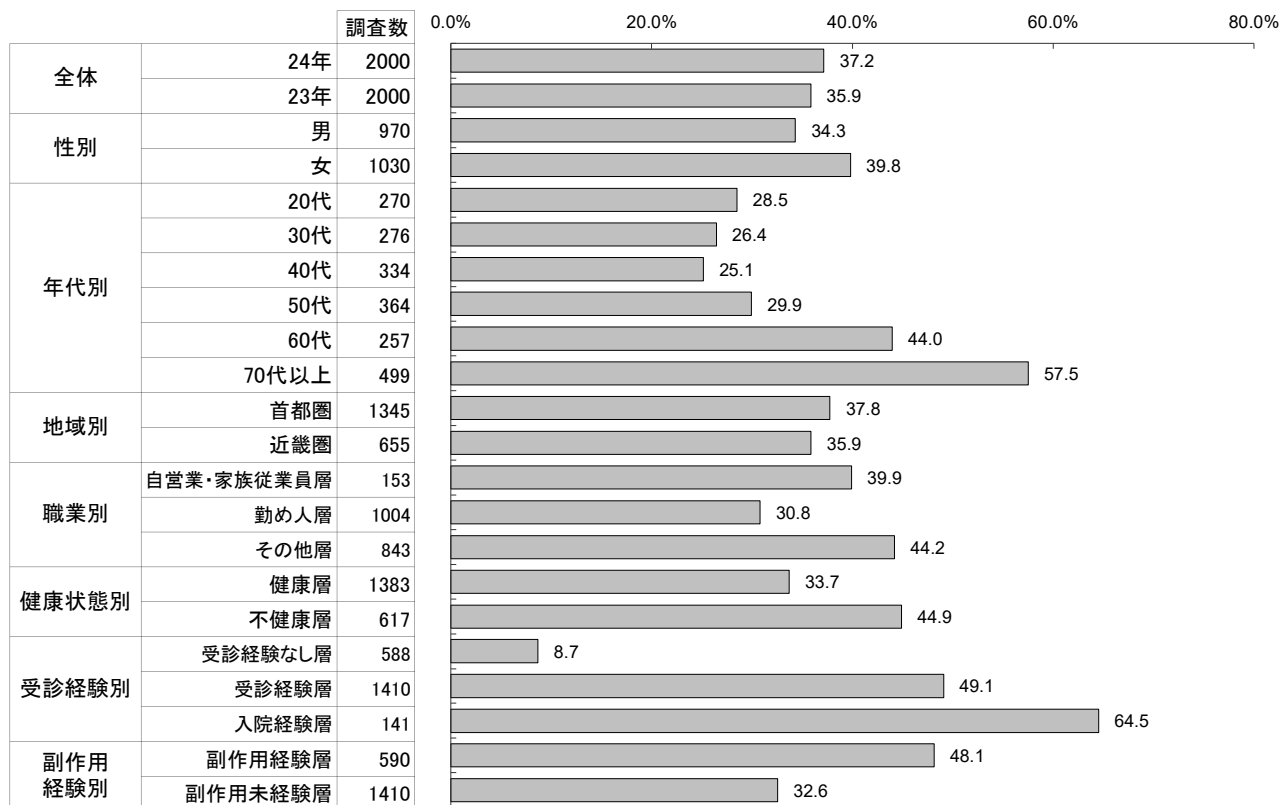
「かかりつけ薬局がある」のは全体の37%

- かかりつけ薬局が「ある」と回答したのは全体の37.2%で、前回（35.9%）とほぼ同水準だが、「ない」は48.6%で、前回から約10ポイントの増加となっている。
- 性別でみると、かかりつけ薬局が「ある」割合は女性の方が5.5ポイント高い。
- 年代別でみると、50代までの「ある」は30%未満だが、60代では44.0%に、70代以上では57.5%に急上昇する。
- 健康状態別では、健康層では「ある」が33.7%に対し、不健康層では44.9%で、11.2ポイントの差がある。
- 受診経験別では、経験なし層の「ある」は8.7%だが、受診経験層は49.1%、入院経験層は64.5%と大幅な差がある。
- 副作用経験別でも、副作用経験層48.1%に対し未経験層は32.6%と、15.5ポイントの差がある。

図表10. かかりつけ薬局の有無（全体/24年/23年/22年/21年/20年）



図表11. かかりつけ薬局がある人の比率（全体/属性別/要因別）

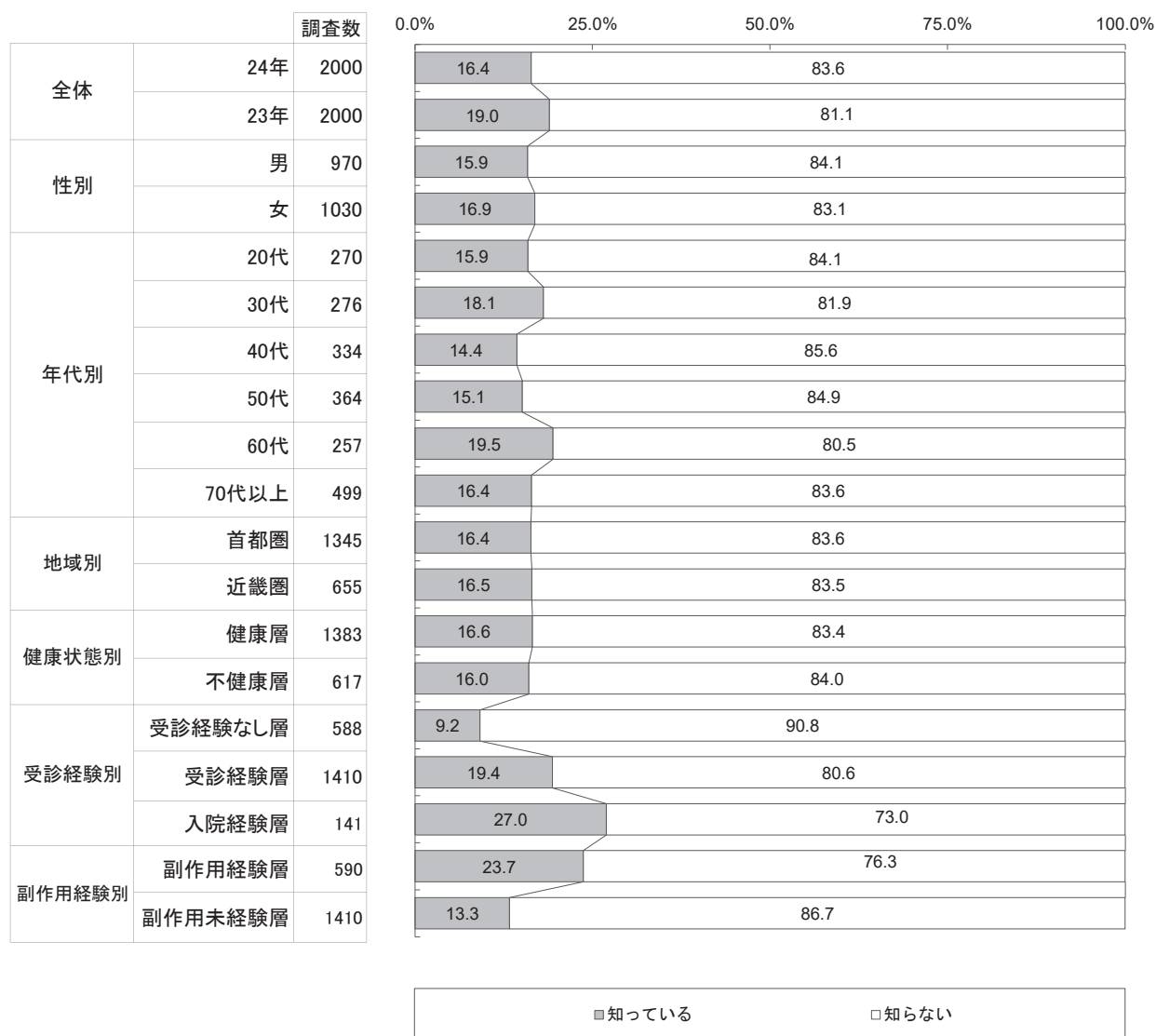


(2) 「くすり相談窓口」の認知 [問5]

「くすり相談窓口」を認知しているのは全体の16%

- 製薬会社が設けている「くすり相談窓口」の認知率は全体で16.4%となり、前回（19.0%）から微減。
- 性別では認知率の差はほぼない。
- 年代別でも認知率に極端な差はない。どの年代も20%未満で、最も高いのは60代の19.5%、最も低いのは40代の14.4%である。
- 健康状態別でも認知率に差はない。受診経験別では、受診経験層と入院経験層の認知率は受診経験なし層より大幅に高い。副作用経験層は未経験層より2倍近く高い。

図表12. くすり相談窓口の認知（全体/属性別/要因別）



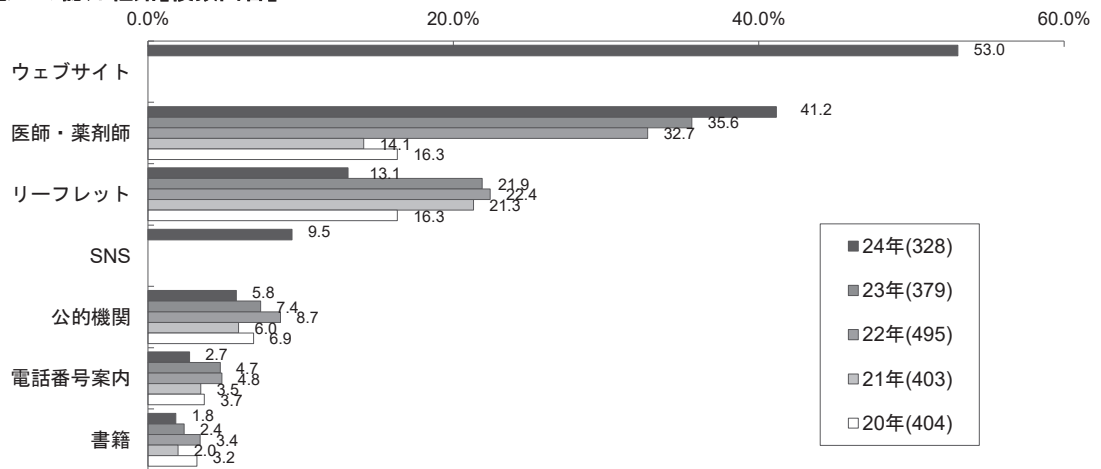
注) %値は回答者ベースで算出

(3) 「くすり相談窓口」の認知経路 [問5-1]

認知経路は「ウェブサイト」が53%で最多、「医師・薬剤師」も41%

- 「くすり相談窓口」の認知経路は、「ウェブサイト」53.0%と「医師・薬剤師」41.2%が際立って多く、続く「リーフレット」13.1%、「SNS」9.5%と比較しても3倍以上の差がついている。
- 性別でみると、総じて男性の方が高いが、「公的機関」は女性の方が僅かに高い。
- 年代別では、20代での「医師・薬剤師」が目立って高く、「リーフレット」と「SNS」「電話番号案内」も他年代より高い。「ウェブサイト」は40代が最も高く、「公的機関」は70代以上で高い。
- 「ウェブサイト」は健康層より不健康層が高く、受診経験なし層より受診経験層、入院経験層が高い。特に入院経験層では73.7%の高率。副作用経験層は未経験層より10ポイント近く高い。「医師・薬剤師」は不健康層より健康層の方が高くなっている。

図表13. くすり相談窓口の認知経路【複数回答】



注1) %値は回答者ベースで算出

注2) 「ウェブサイト」「SNS」は24年調査より追加

図表14. くすり相談窓口の認知経路【複数回答】

(単位: %)

	調査数	ウェブサイト	医師・薬剤師	リーフレット	SNS	公的機関	電話番号案内	書籍
全体	24年 328	53.0	41.2	13.1	9.5	5.8	2.7	1.8
	23年 379	-	35.6	21.9	-	7.4	4.7	2.4
性別	男 154	57.8	47.4	13.6	14.3	3.9	3.9	3.2
	女 174	48.9	35.6	12.6	5.2	7.5	1.7	0.6
年代別	20代 43	53.5	62.8	20.9	30.2	4.7	9.3	2.3
	30代 50	54.0	44.0	10.0	18.0	6.0	0.0	4.0
	40代 48	60.4	35.4	14.6	4.2	4.2	4.2	0.0
	50代 55	49.1	38.2	12.7	5.5	3.6	0.0	3.6
	60代 50	46.0	40.0	12.0	6.0	4.0	2.0	2.0
	70代以上 82	54.9	34.1	11.0	1.2	9.8	2.4	0.0
地域別	首都圏 220	54.1	42.3	13.2	10.0	4.1	3.6	0.9
	近畿圏 108	50.9	38.9	13.0	8.3	9.3	0.9	3.7
健康状態別	健康層 229	49.3	42.8	12.7	10.0	5.7	3.1	1.7
	不健康層 99	61.6	37.4	14.1	8.1	6.1	2.0	2.0
受診経験別	受診経験なし層 54	48.1	20.4	13.0	1.9	7.4	0.0	1.9
	受診経験層 273	54.2	45.4	12.8	11.0	5.5	3.3	1.8
	入院経験層 38	73.7	60.5	34.2	21.1	2.6	5.3	5.3
副作用経験別	副作用経験層 140	59.3	48.6	18.6	14.3	3.6	4.3	2.9
	副作用未経験層 188	48.4	35.6	9.0	5.9	7.4	1.6	1.1

注1) %値は回答者ベースで算出

※23年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

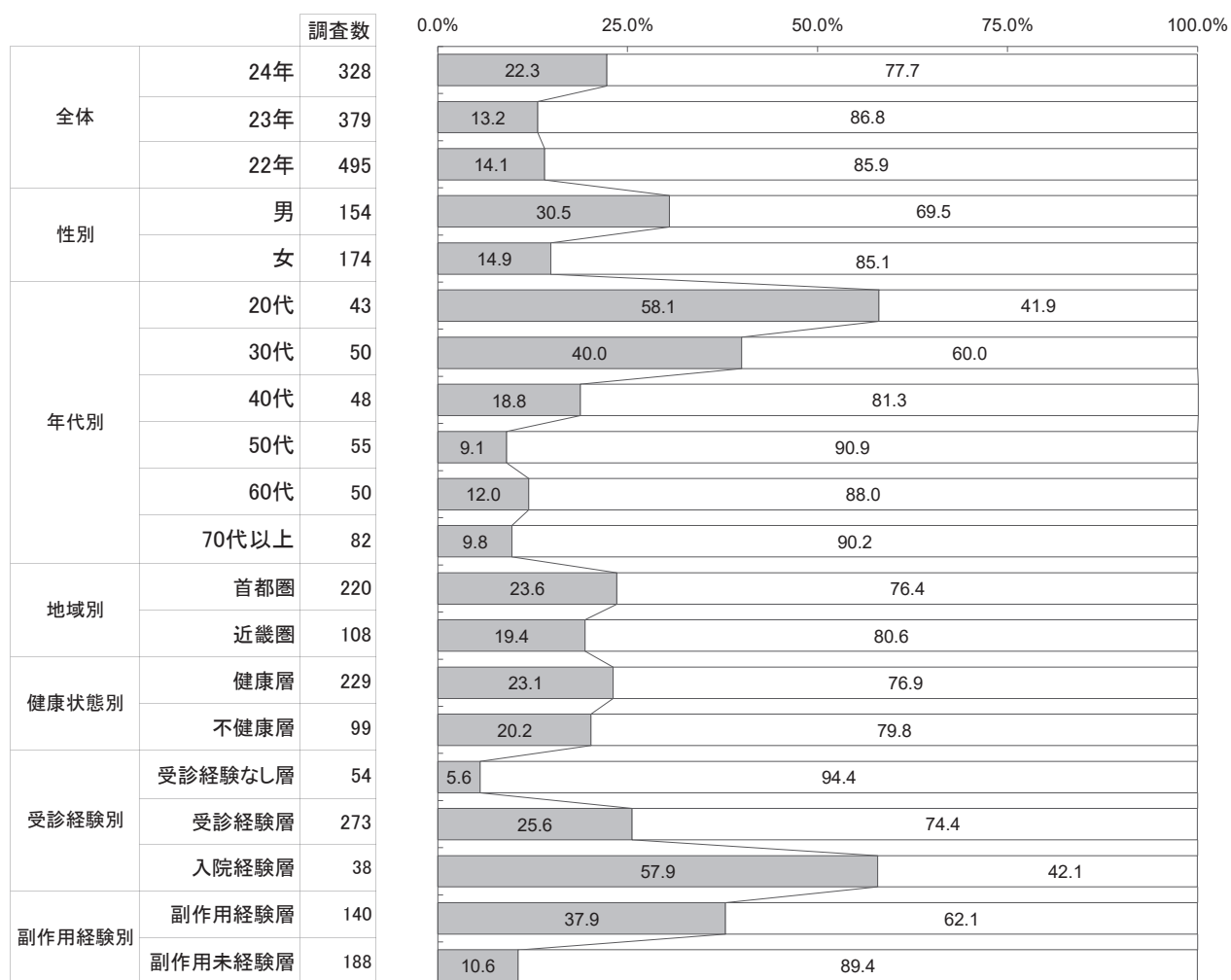
注2) 「ウェブサイト」「SNS」は24年調査より追加

(4) 「くすり相談窓口」の利用 [問6]

「くすり相談窓口」の利用率は、全体では4%、認知者ベースでは22%

- 「くすり相談窓口」の利用者は、22.3%。
- 性別にみると、利用率は男性の30.5%に対し女性は14.9%。
- 年代別の利用率は、20代が58.1%で最も高く、年代の上昇に伴って減少し、50代では9.1%まで低下する。
- 健康状態別では健康層の方がやや高く、受診経験別では入院経験層で高い。副作用経験別では、副作用経験層での37.9%に対し未経験層は10.6%と大幅な差がある。

図表15. くすり相談窓口の利用（全体/属性別/要因別）



注1) %値は回答者ベースで算出

注2) くすり相談窓口の認知者のみを対象として利用状況を集計

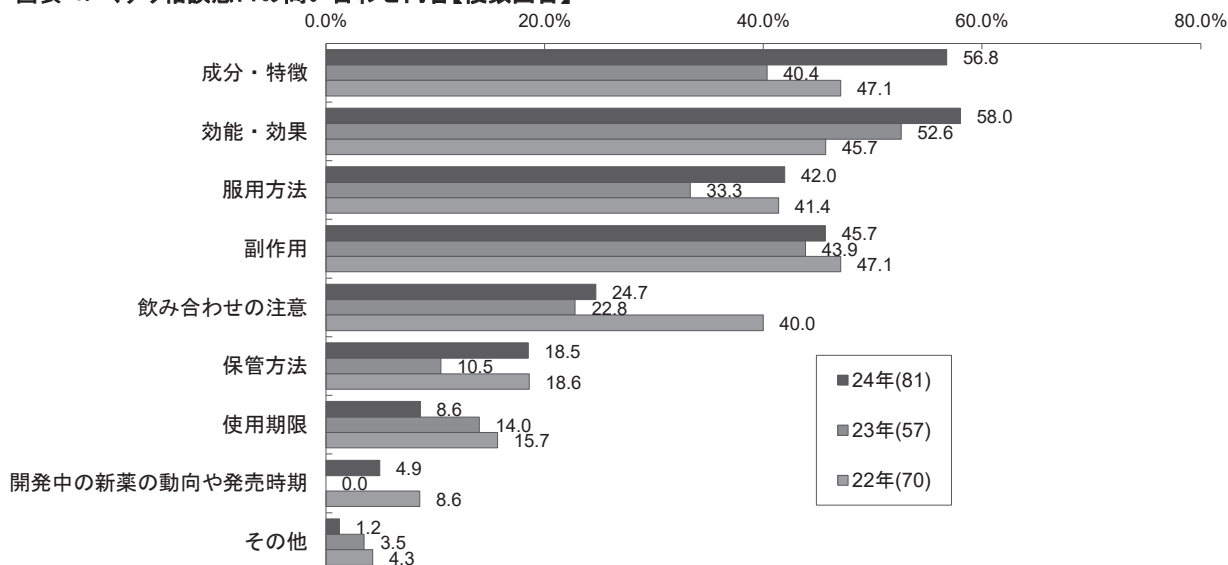
■ 利用したことがある □ 利用したことがない

(5) 「くすり相談窓口」への問い合わせ内容と対応満足度 [問6-1、問6-2]

「くすり相談窓口」への問い合わせ内容のトップ3は「効果・効能」「成分・特徴」「副作用」
「くすり相談窓口」の対応満足度は100%で、5割強は「とても満足」している

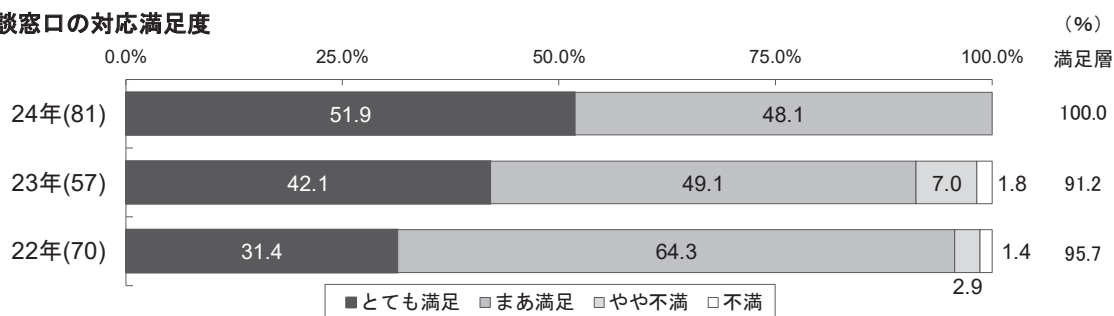
- 「くすり相談窓口」への問い合わせ内容は、「効果・効能」58.0%がトップで、僅差で「成分・特徴」56.8%が続く。以降は「副作用」45.7%、「服用方法」42.0%と並ぶ。この4項目を含む上位6項目は前回のスコアを上回っている。
- 対応満足度では「とても満足」51.9%、「まあ満足」48.1%で、2層を合計した満足率は100%である。前回と比べると「とても満足」は約10ポイント増であるほか、「やや不満」と「不満」はどちらもゼロである。

図表16. くすり相談窓口の問い合わせ内容【複数回答】



注) %値は回答者ベースで算出

図表17. くすり相談窓口の対応満足度



注) %値は回答者ベースで算出

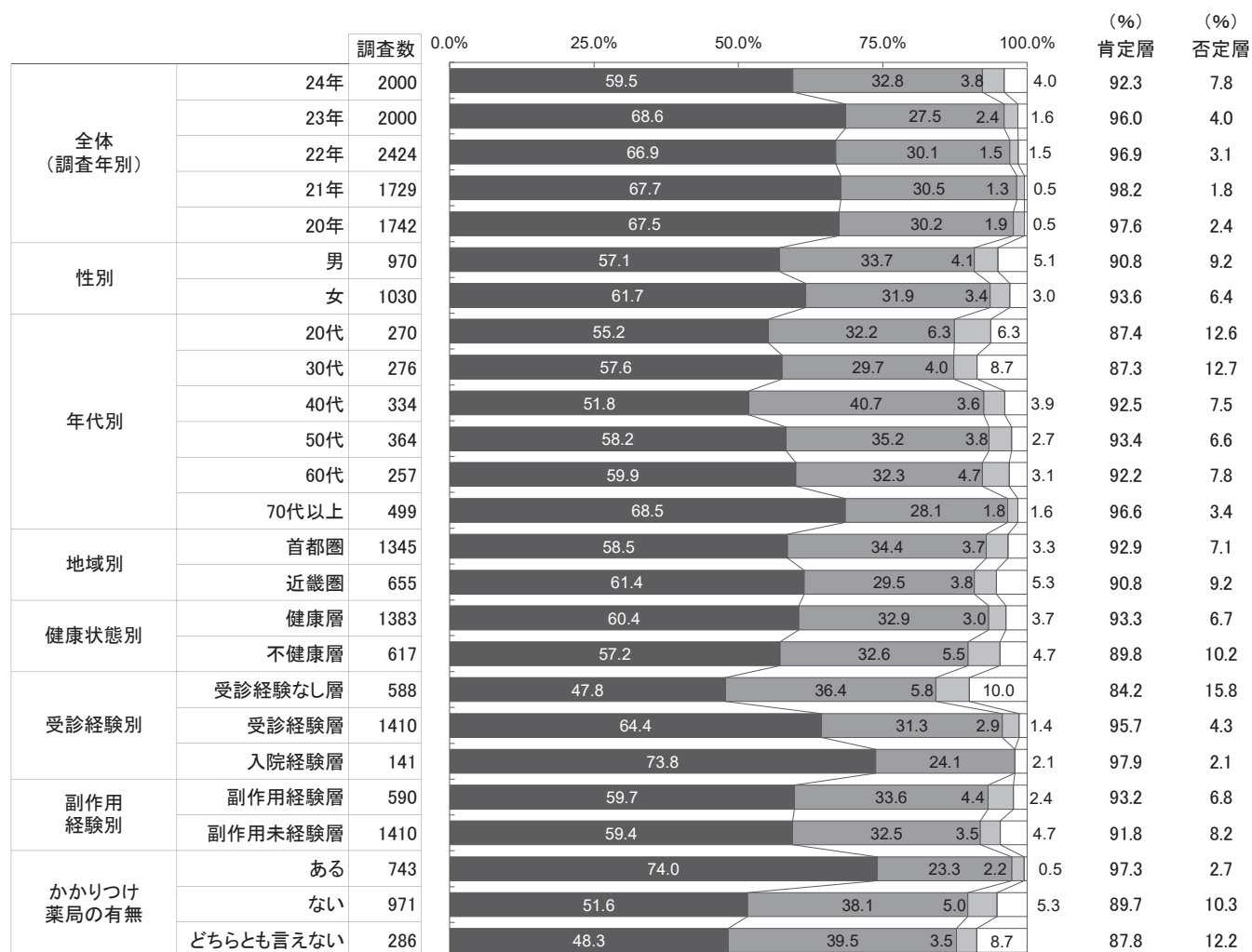
4 処方薬の使用実態

(1) 医師や薬剤師の指示遵守度 [問7]

くすりを医師や薬剤師の「指示どおり飲めている」のは60%

- 処方された薬を医師や薬剤師の「指示どおり飲めている」のは59.5%、「まあ指示どおり飲めている」は32.8%で、2層を合計した肯定層は92.3%にのぼる。肯定層の割合は前回から3.7ポイントのダウン。
- 性別にみると、肯定層は女性の方がやや多いが、男女ともに90%を超えており大差はない。
- 年代別では、20代と30代は肯定層の割合が40代以上よりやや低い。70代以上では68.5%が「指示どおりに飲めている」としているほか、肯定層の割合も96.6%に達している。
- 健康状態別と副作用経験別では肯定層の割合に目立った差はみられないが、受診経験別では受診経験層と入院経験層、かかりつけ薬局の有無別では「ある」層の方が明らかに高い。

図表18. 医師や薬剤師の指示遵守度（全体/属性別/要因別）



■ 指示どおり飲めている ■ まあ指示どおり飲めている
 ■ あまり指示どおりに飲めていない □ 指示どおり飲めていない

注1) %値は回答者ベースで算出

注2) 「肯定層」=「指示どおり飲めている」「まあ指示どおり飲めている」の合計比率

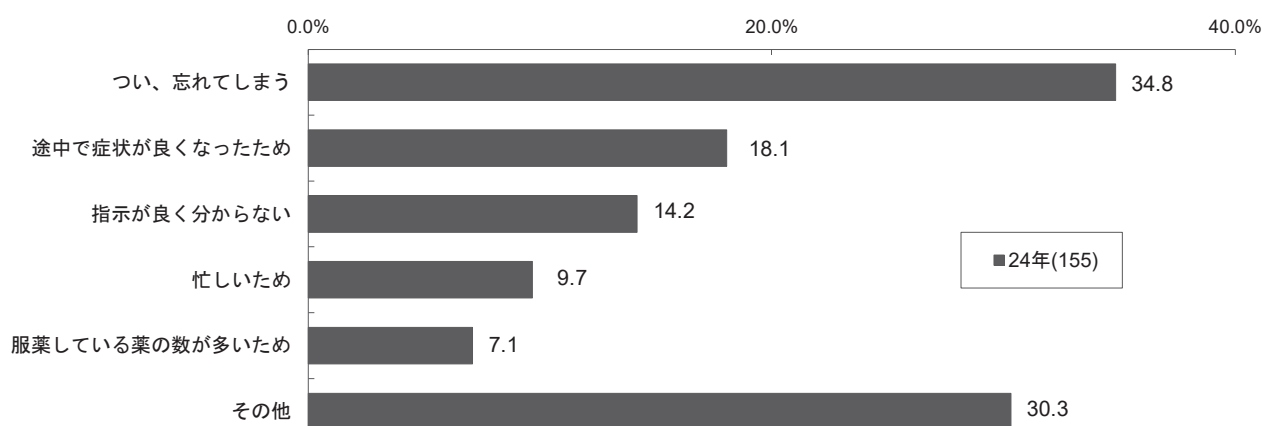
「否定層」=「あまり指示どおりに飲めていない」「指示どおり飲めていない」の合計比率

(2) 指示どおりに飲めていない理由 [問7-1]

指示どおりに飲めていないの理由は「つい、忘れてしまう」が35%

- 処方されたくすりを指示どおりに飲めていない理由では、「つい、忘れてしまう」34.8%が際立って多い。大きく差があって「途中で症状が良くなったため」18.1%、「指示が良く分からない」14.2%が続く。
- 性別にみると、「指示が良く分からない」は、女性は7.6%だが、男性は19.1%と大きな差がある。
- 年代別では、「忙しい」は30代、「つい忘れてしまう」は40代と50代、「服用している薬の数が多いため」は50代、「指示が良く分からない」は60代で多い。「途中で症状が良くなった」は60代と70代で多い。
- 副作用経験層では、経験層は未経験層よりも「服用している薬の数が多いため」が10ポイント以上高い。

図表19. 指示どおりに飲めていない理由（全体）【複数回答】



注) %値は回答者ベースで算出

図表20. 指示どおりに飲めていない理由（認知者全体/属性別/要因別）【複数回答】

(単位: %)

	調査数	しつ まい、 忘れ て	た良途 めく 中 な で つ 症 状 が	分指 か示 ら が な 良 い く	忙 し い た め	た薬服 めの 薬 数 し が 多 い る	そ の 他
全体	24年 155	34.8	18.1	14.2	9.7	7.1	30.3
性別	男 89	31.5	15.7	19.1	9.0	9.0	29.2
	女 66	39.4	21.2	7.6	10.6	4.5	31.8
年代	20代 34	35.3	20.6	14.7	8.8	8.8	20.6
	30代 35	31.4	11.4	14.3	20.0	5.7	31.4
	40代 25	48.0	12.0	12.0	4.0	4.0	28.0
	50代 24	41.7	16.7	8.3	12.5	16.7	29.2
	60代 20	35.0	25.0	25.0	5.0	0.0	30.0
	70代以上 17	11.8	29.4	11.8	0.0	5.9	52.9
	70代以上 17	11.8	29.4	11.8	0.0	5.9	52.9
地域別	首都圏 95	33.7	16.8	13.7	10.5	8.4	31.6
	近畿圏 60	36.7	20.0	15.0	8.3	5.0	28.3
健康状態別	健康層 92	32.6	20.7	13.0	8.7	4.3	27.2
	不健康層 63	38.1	14.3	15.9	11.1	11.1	34.9
受診経験別	受診経験なし層 93	29.0	15.1	19.4	7.5	1.1	33.3
	受診経験層 61	44.3	23.0	4.9	13.1	16.4	26.2
	入院経験層 3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
副作用の経験別	副作用経験層 40	37.5	17.5	15.0	12.5	17.5	20.0
	副作用未経験層 115	33.9	18.3	13.9	8.7	3.5	33.9

注) %値は回答者ベースで算出

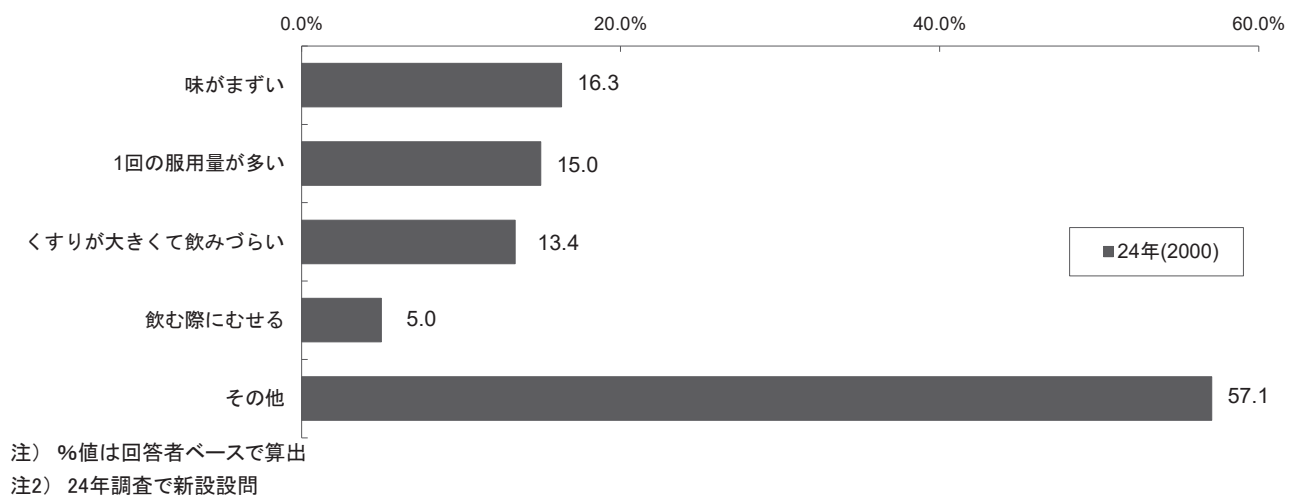
※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

(3) 服薬にあたっての不便さ〔問7-2〕

服薬の際の不便さでは「味がまずい」が16%で最多、「その他」も57%

- 服薬にあたっての不便さの上位は「味がまずい」16.3%、「1回の服用量が多い」15.0%、「くすりが大きすぎて飲みづらい」13.4%と並び、トップ3は僅差となっている。一方で「その他」が57.1%を占め、多様な不便さが存在することがうかがえる。
- 性別では「1回の服用量が多い」は男性、「くすりが大きすぎる」は女性の方がやや高い。
- 年代別では「味がまずい」や「くすりが大きすぎて飲みづらい」などは若年層ほどスコアが高い。一方で「その他」は年代が上がるにつれて上昇しており、70代以上の「その他」は72.3%に達している。
- 「1回の服用量が多い」は健康層より不健康層、受診経験なし層より受診経験層と入院経験層、副作用未経験層より経験層の方が高い。「くすりが大きすぎて飲みづらい」も、入院経験層と副作用経験層で高い。

図表21. 服薬にあたっての不便さ（全体）【複数回答】



図表22. 服薬にあたっての不便さ（全体/属性別/要因別）【複数回答】

(単位: %)

	調査数	味がまずい	多1回の服用量が多い	くすりが大きすぎて飲みづらい	飲む際にむせる	その他
全体	24年 2000	16.3	15.0	13.4	5.0	57.1
性別	男 970	16.3	17.4	10.4	5.3	56.0
	女 1030	16.3	12.7	16.2	4.8	58.1
年代	20代 270	21.1	17.0	24.4	9.6	40.0
	30代 276	22.1	18.5	19.6	8.7	40.6
	40代 334	23.4	13.2	13.2	4.5	51.2
	50代 364	17.3	13.5	11.8	3.6	58.8
	60代 257	10.1	16.0	9.3	3.9	68.1
	70代以上 499	8.2	13.8	7.4	2.4	72.3
地域別	首都圏 1345	17.2	15.6	13.5	5.0	56.1
	近畿圏 655	14.4	13.7	13.1	5.0	59.1
健康状態別	健康層 1383	16.4	11.9	13.2	5.1	58.9
	不健康層 617	16.0	22.0	13.8	4.9	53.0
受診経験別	受診経験なし層 588	20.9	8.0	15.1	7.5	54.9
	受診経験層 1410	14.4	17.9	12.6	3.9	58.0
	入院経験層 141	14.9	28.4	27.0	4.3	40.4
副作用の経験別	副作用経験層 590	18.8	24.2	19.8	7.1	43.6
	副作用未経験層 1410	15.2	11.1	10.7	4.1	62.7

注) %値は回答者ベースで算出

※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

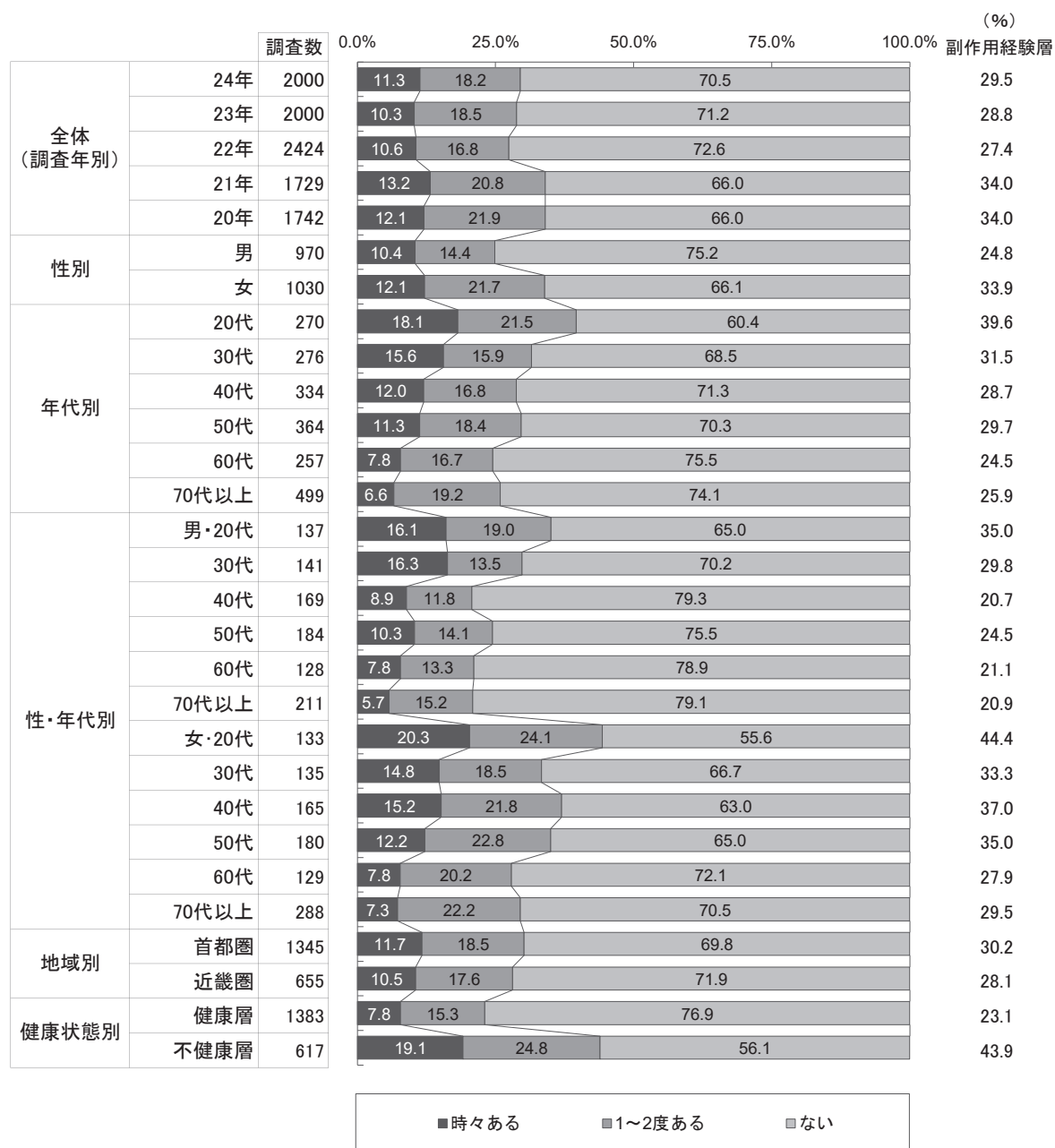
5 副作用の経験・認知

(1) 副作用の経験 [問8]

副作用経験率は全体では30%、性別では女性の方がやや高い

- 副作用と思われる症状の経験については「時々ある」が11.3%、「1～2度ある」が18.2%で、副作用の経験率は29.5%となっている。経験率は23年からほぼ変わらない。
- 性別にみると、男性の経験率は24.8%だが女性では33.9%で、9.1ポイントの差がある。
- 年代別にみると、経験率は20代が39.6%で最も高く、30代から50代は30%前後でほぼ横並び、60代と70代以上は25%前後と年代の上昇につれて徐々に低下する傾向にある。性・年代別にみても、男女とも20代が最も高く、特に女性20代では44.4%と目立って高くなっている。
- 副作用経験率に地域による差はないが、健康状態別では不健康層の経験率は健康層より20.8ポイント高い。

図表23. 副作用の経験（全体/属性別）



注1) %値は回答者ベースで算出

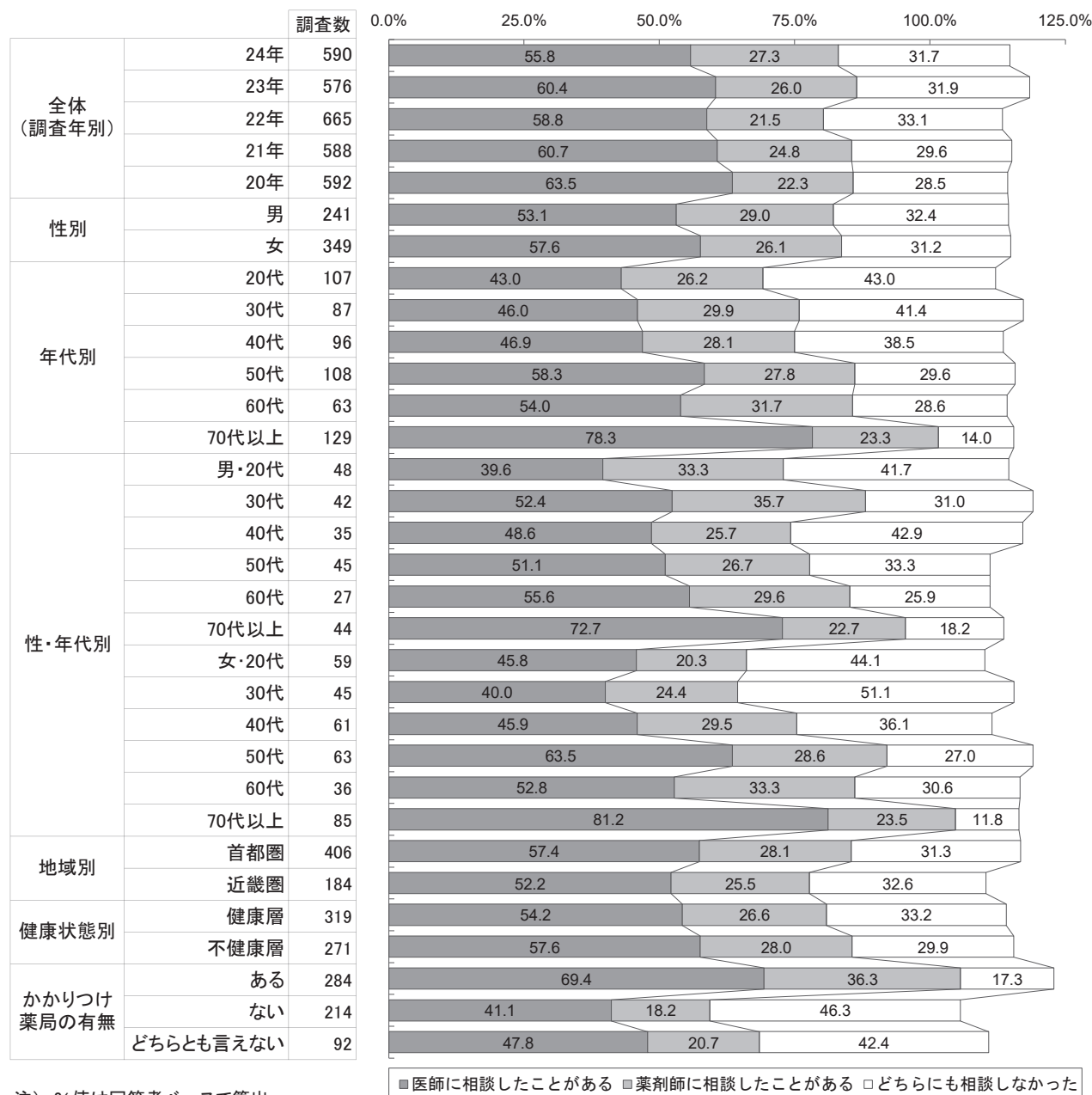
注2) 「副作用経験率」＝「時々ある」「1～2度ある」の合計比率

(2) 副作用を経験したときの対応 [問8-1]

「医師に相談した」経験があるのは56%、「薬剤師に相談した」は27%

- 副作用を経験したときの対応では、「医師に相談したことがある」が最も多く55.8%で最も高い。「薬剤師に相談したことがある」は27.3%で、31.7%は「どちらにも相談しなかった」としている。
- 前回と比べると、「医師に相談したことがある」は4.6ポイント減少しているが、全体の傾向に変化はない。
- 年代別でみると、「医師に相談したことがある」の割合は高年層ほど高くなり、20代の43.0%に対し、70代以上では78.3%にのぼる。
- 性・年代別にみても、高年層ほど医師に相談した割合が上昇する傾向は男女で共通している。
- 地域別にみると、医師や薬剤師への相談率は首都圏の方がやや高い。健康状態別では不健康層、かかりつけ薬局の有無別ではある層で相談した割合が高い。

図表24. 副作用を経験した時の対応（全体/属性別）【複数回答】



注) %値は回答者ベースで算出

(3) 副作用を経験した時に相談しなかった理由 [問8-2]

「副作用と思われる症状が起きても特に困らなかったから」37%がトップ 「どの程度の症状で連絡して良いかわからなかったから」23%が続く

- 副作用を経験しながら医師に相談しなかった理由では、「副作用と思われる症状が起きても特に困らなかったから」が37.4%で最も多い。次点は「どの程度の症状で医療機関に連絡して良いかわからなかったから」22.5%が挙がる。
- 性別でも1位と2位は男女共通だが「特に困らなかったから」「仕事などで忙しく連絡や受診ができなかった」は男性の方が高い。一方で「ウェブサイトやSNSで検索して対応できたから」は女性は男性の約2倍である。
- かかりつけ薬局のある層は、ない層と比べて「医療機関から事前に提供された情報を見直して対応できたから」「ウェブサイトやSNSで検索して対応できたから」のスコアの高さが目立つ。

図表25. 副作用経験時に相談しなかった理由 (全体/属性別/要因別) 【複数回答】

(単位: %)

		調査数	医療機関から事前に提供された情報を見直して対応できたから	ウェブサイトやSNSで検索して対応できたから	副作用と思われる症状が起きても特に困らなかったから	何を相談したら良いのかわからなかったから	どの程度の症状で医療機関に連絡して良いのかわからなかったから	仕事などで忙しく、医療機関への連絡ができなかったから	その他
全体	24年	187	10.7	16.0	37.4	10.2	22.5	15.0	13.9
	23年	184	16.3	14.1	42.4	10.3	22.3	15.2	8.2
性別	男	78	11.5	10.3	41.0	14.1	20.5	19.2	10.3
	女	109	10.1	20.2	34.9	7.3	23.9	11.9	16.5
年代別	20代	46	8.7	13.0	34.8	10.9	8.7	13.0	21.7
	30代	36	8.3	27.8	47.2	13.9	22.2	19.4	5.6
	40代	37	13.5	10.8	37.8	10.8	27.0	13.5	10.8
	50代	32	9.4	6.3	40.6	6.3	21.9	18.8	12.5
	60代	18	0.0	16.7	22.2	11.1	44.4	16.7	22.2
	70代以上	18	27.8	27.8	33.3	5.6	27.8	5.6	11.1
地域別	首都圏	127	10.2	18.1	40.2	11.8	26.0	12.6	11.8
	近畿圏	60	11.7	11.7	31.7	6.7	15.0	20.0	18.3
健康状態別	健康層	106	11.3	15.1	42.5	11.3	18.9	13.2	11.3
	不健康層	81	9.9	17.3	30.9	8.6	27.2	17.3	17.3
かかりつけ薬局の有無	ある	49	18.4	26.5	34.7	14.3	24.5	12.2	6.1
	ない	99	8.1	14.1	38.4	8.1	21.2	16.2	15.2
	どちらとも言えない	39	7.7	7.7	38.5	10.3	23.1	15.4	20.5

注) %値は回答者ベースで算出

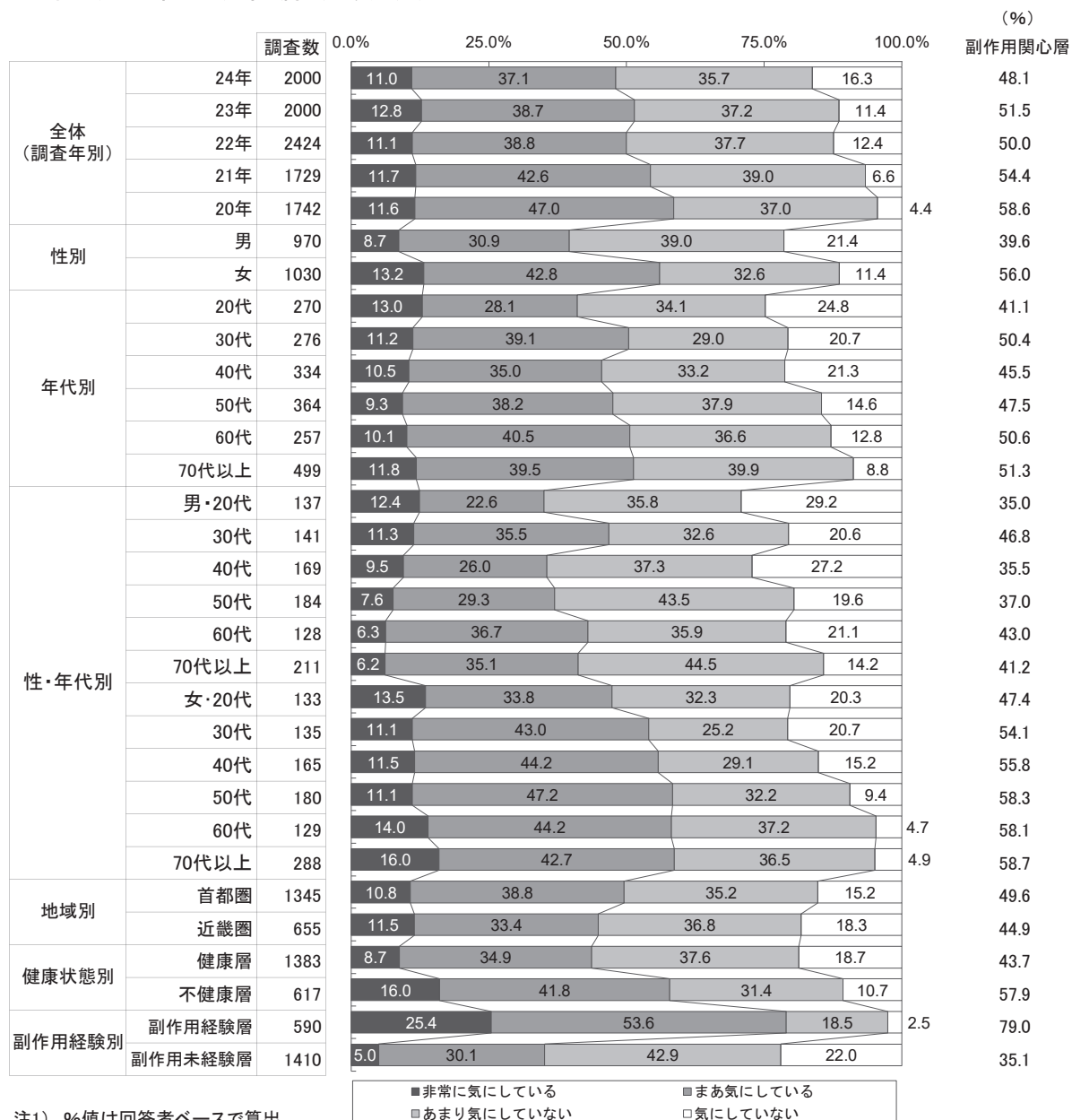
※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

(4) 副作用への関心 [問9]

副作用関心層は全体では48%、性別では女性の関心の高さが目立つ

- 処方されたくすりを飲むとき、副作用を「非常に気にしている」は11.0%、「まあ気にしている」は37.1%。この2層を合計した副作用関心層は全体の48.1%で、前回から3.4ポイントのダウン。
- 性別では女性の方が関心を寄せており、男性は関心層の割合が39.6%に対し、女性は56.0%で15ポイント以上の差がある。
- 性・年代別に関心層の割合をみると、男性は最も高い30代でも46.8%だが、女性は20代を除いて軒並み50%を超えている。
- 地域別では、副作用関心層は首都圏の方がやや高い。
- 健康状態別では、不健康層の関心層は57.9%に対し、健康層は43.7%と明らかな差がある。
- 副作用経験別では、副作用未経験層は35.1%に対し、副作用経験層は79.0%と2倍以上の開きがある。

図表26. 副作用への関心（全体/属性別/要因別）



注1) %値は回答者ベースで算出

注2) 「副作用関心層」=「非常に気にしている」「まあ気にしている」の合計比率